

ゼミナール紹介

担当者名	井上裕之
e-mail アドレス	inoueh@bunkyo.ac.jp
研究室	3401
在室曜日・時限	火曜日（2限～昼休み）、水曜日（午後：会議時間以外～16時） ただし、不在のこともあるので、必ず事前にメールにてお問い合わせください。
個別相談など （日時・方法）	まず事前にメールにてお問い合わせください。必要に応じて ZOOM あるいは直接会って個別相談に応じます。
選抜方法	定員を超えた場合は、志望書（希望理由と自己PR）と面談（オンライン）などで総合的に評価・選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	本ゼミ希望者は、「情報学特殊講義A」（5セメ予定）も必ず履修すること。
2022年度担当科目	文章演習Ⅰ、文章演習Ⅱ、キャリア研究A、文献講読、プレゼミナールB、インターンシップ、情報学特殊講義A、ゼミナールⅠ・Ⅱ
授業概要	<p>【概要】 本ゼミナールは「ジャーナリズム」のゼミです。ニュース、報道、メディアなどにかかわることを研究の対象とし、日々のニュースの見方を学んだり、ニュースの取材・制作方法などを学んだりします。最終的には全員が「卒業論文」を執筆します。</p> <p>【具体的な内容】</p> <p>▼私自身は、長年テレビ局の記者として、ことばと映像を駆使しながら「伝える」という仕事に携わってきました。したがって、本ゼミは将来「伝え手」になりたい人、つまり、さまざまなことを取材して記事を書いたりニュース動画を作ったりしたいと考えている人には向いています。ただし、必ずしもニュースや記事などの作り手や伝え手を目指してなくても、それらに強い関心があるという人でも参加できます。</p> <p>▼3年次には、テレビニュースの比較研究や、取材をもとにした記事・動画の作成などを行う予定です（ちなみに、2022年度の春学期は「ウクライナの戦争報道」についてのテレビ各局の比較を行いました）。4年次には、メディアにかかわるテーマを各々が見つけて、卒業論文を執筆します。</p> <p>▼本ゼミ履修希望者は、3年次から受けられる「情報学特殊講義A」を、必ず履修してください。ここで放送とジャーナリズムの基礎的かつ重要な要素を伝えます。</p> <p>▼ジャーナリズムやメディア論だけでなく、言語学、映像論、社会学などの隣接領域、あるいはニュースだけでなく、ドキュメンタリー、バラエティー、さらにテレビ、ネット、ラジオ、新聞などにも触れながら、幅広い学びをしたい人にも向いています。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	岡野雅雄
e-mail アドレス	okano@bunkyo.ac.jp
研究室	3210 室
在室曜日・時限	火曜日(5 時限)・水曜日(午後;会議時間以外)・木曜日(2,3 時限) 新型コロナの影響で不在の場合もありますので、相談希望の方はまずメールにてお問合せください。
個別相談など (日時・方法)	まずメールにてお問合せください。必要に応じて Zoom により、あるいは直接、個別相談をしたいと思います。
選抜方法	もし定員以上となったら、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論
2022 年度担当科目	コミュニケーション論基礎、言語コミュニケーション論、記号論、基礎演習A、ゼミナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	<p>◆本ゼミナールの<u>基本的なテーマ</u>は、「言語あるいは記号によるコミュニケーション」です。</p> <p>最終的な到達目標は、<u>各自の設定したテーマについて必要な資料やデータを集めて分析し、論文を作成する能力を身につける</u>ことです。論文を作成することで、原稿用紙換算で 50 ページ以上のしっかりした文章を執筆する能力を身に付けていただきたいと思います。</p> <p>「卒業研究」で論文を書くことを前提にゼミを進めてゆきますので、ゼミ選択の際には注意してください。</p> <p>◆ゼミナールの<u>具体的な進め方</u>は、以下のとおりです。</p> <p>春学期は、コミュニケーションに関する文献を購読します。そして、その内容にもとづいて発表し、討議します。秋学期は、より卒論を意識して情報収集・購読・討議を行います。</p> <p>その過程で、以下にあげるような知識・技能を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ作成の方法、口頭発表の仕方、新聞・雑誌記事の検索、調査結果のまとめ方、グラフや表の作成、問題発見(リサーチ・クエスチョンの設定)、原稿執筆のためのアウトライン作成・論文の構成・校正等

ゼミナール紹介

担当者名	奥村真司
e-mail アドレス	okumuras@bunkyo.ac.jp
研究室	3307
在室曜日・時限	新型コロナの影響により、不定期となっています。まずは、メールで連絡してください。
個別相談など (日時・方法)	メールにてお問合せください。必要に応じて、Google Meet により個別相談をしたいと思います。
選抜方法	定員以上となった場合には、ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	英語 IA, IIA、異文化コミュニケーション
2022 年度担当科目	英語 IA, IIA、基礎演習 A、異文化コミュニケーション、プレゼミナール C、ゼミナール I, II、卒業研究 I, II、海外研修
授業概要	<p>【ゼミナールのテーマ】 「メディア表現×グローバル化」ー日本のポップカルチャー研究</p> <p>グローバル化の進展とともに、アニメ、漫画、ゲームに代表される日本のポップカルチャーは、世界中の若い世代を中心に人気を集めています。</p> <p>日本のポップカルチャーが海外の人々にどのように受け入れられ、影響を与えているのでしょうか。</p> <p>このゼミナールでは、日本のポップカルチャーのグローバル化について研究します。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	清水一彦
e-mail アドレス	shimizu1@bunkyo.ac.jp
研究室	5404
在室曜日・時限	月曜日 昼休み、2限、5限終了後は対応可（3限、4限、5限は授業） 火曜日 昼休み、4限、5限は対応可（2限、3限は授業） 水曜日 3限は対応可（2限は授業。ただし第2、3水曜日の午後は会議で不在）
個別相談など (日時・方法)	メールで前日までにアポを取ること。 個別相談を受けない学生は選抜しません。
選抜方法	志望書（希望理由、自己PR など1000字以内）、成績、面接。
ゼミナールに 関連する科目	3年次終了までに必修：出版論、出版文化論、記事制作A 推奨：出版演習、写真技法、情報表現デザイン、ジャーナリズム論
2022年度担当科目	出版論、出版文化論、出版演習、記事制作A、記事制作I、マス・コミュニケーション論、プレゼミA、小説・評論演習
授業概要	<p>将来、出版業界で仕事をしたい学生を対象としたゼミナールです。到達目標は、編集を実践し、さらに出版学分野での卒業論文を完成させ、出版社の就職試験で勝負ができるようになることです。そのために、デジタルも含めたあらゆる出版物の制作に応用がきく雑誌づくりと、出版コンテンツの内容分析、出版の学術的な研究をします。多量の出版物の購読もします。雑誌づくりや研究は本気で取り組まないと落ちこぼれます。覚悟をした上でゼミに参加してください。</p> <p>2年の冬からゼミを開始します。出版物の購読・内容分析と出版学の知識を習</p>

得しながら、各自が選んだテーマの研究プレゼンテーションをします。その後、3年の夏前から冬にかけて、64～76 ページ程度の本格的な雑誌づくりをします。出版業界のプロに見せても恥ずかしくないレベルを目標します。企画、取材、撮影、デザイン、DTP、執筆など、一連の編集作業をすべて学生自身でおこないます。撮影機材、デザイン用パソコンとソフトは用意してありますが、資料購入費、取材経費、旅費・交通費などは自己負担となります。

ゼミ活動の拘束時間は長くなります。雑誌づくりは週1回の授業時間内では終わりません。また、雑誌づくりはチームプレイです。編集技術と同時にコミュニケーション力、責任力、共感力も養います。アルバイトなど個人的な都合や気分です。ゼミを欠席したり、ないがしろにすることは許しません。

4年生の卒業研究では、卒業論文を書きます。テーマは出版に関連することなら、産業、歴史、コンテンツ論、メディア論など幅広い範囲から各自の興味にしたがって選べます。ただし、学術論文としての完成度を求めます。1年間じっくり研究に取り組みます。おおよそのスケジュールとしては、雑誌完成後から4年の春にかけてテーマの設定と文献購読、プレゼンテーションを経て、夏休み前に第1回中間発表会。夏休み明けに第2回中間発表会と草稿提出。年内に完成稿提出。年明けに研究発表会です。

以上を十分に了解してからゼミに来てください。

ゼミナール紹介

担当者名	白土由佳
e-mail アドレス	yuka@bunkyo.ac.jp
研究室	3402
在室曜日・時限	水、木、金（来訪の際は事前に連絡をください）
個別相談など （日時・方法）	ゼミナールはいつでも見学可能です。水曜 2 限に 3107 教室にいらしてください。まれにオンラインの際があるため、見学の際は事前に連絡をください。 個別相談は随時受け付けています。日程調整のためメールで連絡をください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談にて選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	下記科目
2022 年度担当科目	卒業研究、ゼミナール I・II、デジタルメディア論、インターネットビジネス論、コンテンツ発想法、プレゼミナール C、基礎演習 A
授業概要	<p>■ 概要</p> <p>本ゼミナールでは、ソーシャルリスニングというアプローチを学び、みなさんの身の回りにある様々なおもしろいことの分析を通じて、私たちは今、どのような社会に生きているのかを考えていきます。</p> <p>ソーシャルリスニングとは、自然に発生した人々の会話や行動などを分析し、人々の実生活に基づいた意見を活用することです。例えば、2020 年度のゼミナールでは、コロナ禍を共通テーマとして、Twitter のデータ分析を行っています。「あなたの番です」というテレビ番組の実況は、放送回を経るにつれてどのように変化していったのか、#自粛警察は何を取り締まっているのか、などについてグループ研究を行っています。2021 年度のゼミナールでは、ラスカ茅ヶ崎様と SNS の多角的分析を通じたハロウィン関連の投稿内容の提案を行いました。2022 年度のゼミナールでは、コンテンツツールの研究者と共同で YouTuber「東海オンエア」の YouTube へのコメントの分析を通じてファン研究を行いました。</p> <p>ソーシャルリスニングは、探索的なアプローチで分析を進めていきます。トライアンドエラーを繰り返しながら、データ分析を楽しんでいきましょう。</p> <p>■ 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R や GoogleColaboratory、KHCoder など、データ分析ツールが使用できる。 ・ ソーシャルリスニングの一連の流れを理解し、実践することができる。 <p>■ スケジュール</p> <p><u>3 年生</u>: 春学期は、毎年任意のテーマに基づき実践的にソーシャルリスニングの流れを学びます。秋学期は、毎年 12 月頃に開催される他大学と合同の研究発表会(教員の所属する学会の研究部会)を目指してグループ研究に取り組みます。4 年生の卒業研究の中間・期末発表にも参加します。</p> <p><u>4 年生</u>: 卒業研究と、3 年生へのアドバイザーとしてグループ研究をサポートします。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	竹林 紀雄
e-mail アドレス	noritake@bunkyo.ac.jp
研究室	3411
在室曜日・時限	火曜日の昼休み、木曜日 5 時限目。ただし、演習科目の前後は不在の場合が多いので、 <u>相談希望の方は個別相談会に参加してください。</u>
個別相談など (日時・方法)	ゼミ見学会－10月4日(火)と11日(火)3限目はTVスタジオでのゼミ活動を見学できます。 個別相談会－希望者には個別に相談を受けます。※希望者数によって日程調整 <u>ゼミ見学会、個別相談会を希望する場合はメールで申し込んでください。</u>
選抜方法	志望者は原則的に受け入れます。ただし、定員を大きく上回った場合はオンライン面接や簡単な試験等により選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	3 セメスターまで ○演習系科目 <u>「映像表現Ⅰ」</u> 、「映像ポストプロダクション演習」、「映像技術演習」、 「テレビ企画構想演習」、 4 セメスター以降 ○演習系科目 <u>「映像表現Ⅱ」</u> 、「テレビ番組制作(スタジオ)」、「アニメーション制作C(アート表現)」 ○講義系科目 「ドキュメンタリー論」、「映画史」、「映像表現論」、「映像プロデュース論」 <u>※ゼミ選択までに「映像表現Ⅰ」、「映像表現Ⅱ」、「映像ポストプロダクション演習」等の竹林ゼミの履修に必要な専門科目を履修できていない志望者は、個別相談会で竹林に相談をしてください。</u>
2021 年度担当科目	春学期 「卒業研究Ⅰ」、「ゼミナールⅠ」、「映像表現Ⅰ」、「ドキュメンタリー論」、「放送論」、「テレビ企画構想演習」、「映像プロデュース論」「映像メディア特論」(大学院)、「情報学特別演習Ⅰ」(大学院) 秋学期 ※以下の科目は今期のみ代講の先生が担当します。 「卒業研究Ⅱ」、「ゼミナールⅡ」、「映像表現Ⅱ」、「映像表現論」、「映画史」、「テレビ番組制作(スタジオ)」
授業概要	竹林ゼミナールでは、在京テレビ局をはじめ映像業界と連携し、テレビ・映像分野全般のプロフェッショナル育成を視野に入れた映像表現教育を行う。具体的には、様々なジャンルの独創的な映像作品を鑑賞し、映像表現への理解を深めると共に、映像作品の制作に取り組む。課題作品の制作に臨むにあたってゼミ生に求めるのは、これを課題として捉えるのではなく、対外的にも「作品」として主張できるものを手掛ける姿勢をもつことである。優れた作品は、映画祭や映像フェスティバルに積極的に橋渡

しをする。

コロナ禍により活動が制約される可能性はあるが、ゼミの課外活動としては、日本テレビやフジテレビ等で行うテレビ局研修。テレビ局内の様々な放送施設を見学し、局内のスタジオやサブルームで生放送番組を体感する研修である。また、ゼミ生全員参加で毎年実施する合宿形式の研修も行いたい。

この他にも、主に都内での映像作品の鑑賞や映像フェスティバルへの参加、またテレビ業界や映画業界の第一線で活躍する方々との交流も予定している。

さらに、学外での取材・ロケの実習を日常的に行う。このように、ゼミ活動に時間を要するので、部活動やサークル、アルバイトなどで忙しい人には向かないゼミである。

ゼミナール紹介

担当者名	日吉 昭彦			
e-mail アドレス	hiyoshi@bunkyo.ac.jp			
研究室	<p>5405（日吉研究室）は左のような感じ。テレビが16台あり、地上波とBSデジタル放送を全チャンネル同時に見れますよ。また、一部、プレゼミで紹介しましたが、昨年度からフォーカス・グループ・インタビュー専用のスタジオを設計したので、ゼミを中心に活用しています。写真右側です。</p>  <p>在室曜限にはどうぞ研究室にお気軽に入室ください。相談いつでも受け付けます。</p>			
在室曜日・時限	<p>コロナ禍が続くなか、定期の在室時間がなく、講義科目は全面オンデマンド授業のため、ご質問・ご相談があれば google MEET でも対応します。メールで気軽に MEET する時間の予約を取ってください。URL は QR で。</p> <p>なお、基本的に、火曜5限は研究室にいます。アポなしで気軽に研究室（5405）を訪問ください。また、メールで予約があれば、水曜午後（無理な日もある）や木曜（一日OK）にも相談可能です。</p>			
個別説明会 （日時・場所）	<p>個別の説明会は上のとおりです。</p> <p>しかし、募集期間中の「水曜2限」は、基本的に対面でゼミを実施しています。ゼミ教室に気軽に訪問してください。ゼミ見学が可能です。その場合は6204教室（上のグルイン・スタジオ）です。先輩の話も聞けるかも。</p>			
選抜方法	<p>定員を超えた場合は、プレゼンテーション等を行う予定です。詳しくは別途連絡します。</p> <p>（なお、メディア表現学科以外の方は、エントリー前に、必ず事前相談の上、エントリーした場合は、必ずプレゼンテーション等が行われます）</p>			
ゼミナールに 関連する科目	<p>社会調査士関連科目、メディア効果論など。 あと社会学概論も(^)v</p>			
2021 年度担当科目	社会学概論 メディア効果論	メディア社会学 プレゼミナールB	社会調査論 ゼミナール	メディア調査研究法Ⅲ 卒業研究 大学院
授業概要	<p>本ゼミナールは、メディア社会学やマス・コミュニケーション論、メディア文化論などの分野を専門としたいみなさんと、さまざまなメディア研究を行うゼミです。</p> <p>ゼミでは研究方法として「質的調査研究法」という方法を採用しています。質的方法には、聞き取り調査やインタビュー、フィードバック、メディア分析などがあります。また、映像のミクロ分析やメディアの効果測定、マーケティングでのフォーカス・グループ・インタビューなども含まれます。</p> <p>そこで、春セメは、専用スタジオを用いて、上記のうちの一つ、「フォーカス・グループ・インタビュー」について、専門的にかつ体験的に学びます。社会で実際に広告業界やマーケティング、企業の商品・サービス開発などで使われている技法を身に付けます。秋セメは、みなさんから調査企画を募集し調査プロジェクトを一つ立ち上げ、「質的調査研究法」をさまざまに用いたメディア研究を行います。過去にはメディアによる地域活性化研究などが多く行われています。</p>			

ゼミナール紹介

担当者名	藤掛正邦
e-mail アドレス	fujikake@bunkyo.ac.jp
研究室	5407 研究室
在室曜日・時限	月、木 5 限終了後。希望者は、前日迄に fujikake@bunkyo.ac.jp へ連絡する。
個別相談など (日時・方法)	まず、相談内容を fujikake@bunkyo.ac.jp へ連絡する。その後、詳細に回答する。
選抜方法	志望理由書、GPA 値、藤掛デザイン科目の成績などを総合的に評価して選抜する。
ゼミナールに 関連する科目	情報表現デザイン、プレゼミナール A、デザイン論、広告表現 I、広告表現 II、 広告企画演習を履修し単位修得していることが望ましい。 単位修得していない科目は次年度履修することを推奨する。
2022 年度担当科目	情報表現デザイン、プレゼミナール A、デザイン論、広告表現 I、広告表現 II、 広告企画演習、ゼミナール I・II、卒業研究 I・II
授業概要	<p>「ゼミナール I」 グラフィックデザインや、広告デザインの研究。 広告企画(商品設定、状況把握、課題設定、コンセプト)→広告表現デザイン(アイデア出し、ラフスケッチ、写真とイラストは自由、レイアウト)完成へ。 *企業・行政から仕事が依頼された場合は内容変更。</p> <p>「ゼミナール II」 9 月中旬、熱海 MOA 美術館日帰り夏合宿で、建物、能楽堂、国宝、仏像、日本画、 現代美術、光琳屋敷、日本庭園などを、取材・撮影して日本文化を研究する。 社会貢献・連携のための、熱海 MOA 美術館広報冊子誌面デザインを制作する。 ゼミ生全員の誌面を編集して印刷会社に入稿する。医療従事者に配布する。 春休み宿題、ゼミ I / II 作品を編集して、就活用ポートフォリオを制作。 3 年終了までに、就活エピソード、ガクチカを充実させる。</p> <p>「卒業研究 I」 広告デザインや、グラフィックデザインの研究。 広告企画(商品設定、状況把握、課題設定、コンセプト)→広告表現デザイン(アイデア出し、ラフスケッチ、写真とイラストは自由、レイアウト)完成する。</p> <p>「卒業研究 II」 ミニコミ誌や、フリーペーパーの研究。 自由に個人テーマを決めて冊子誌面をデザインする。同じテーマに沿って広告広報ポ スターを制作。以上 2 課題を冊子 1 冊にまとめる。各自印刷会社に入稿する。</p>

ゼミナール紹介

担当者名	ボブ田中
e-mail アドレス	bobtanak@bunkyo.ac.jp
研究室	3404
在室曜日・時限	基本は月曜日、水曜日、木曜日に在籍していますが、新型コロナの影響により不定期となっています。相談希望の方は、まずメールにてお問い合わせください。
個別相談など (日時・方法)	希望者は必ず「ゼミ見学」か「個別面談」を受けてください。 ■ゼミ見学 毎週水曜日 2 限 10:50~12:20 です。 事前にメールで、見学日時の予約を取ってください。 ■個別面談 基本は対面にて、時間が合わない場合は ZOOM で行います。 個別面談を希望する旨、メールで連絡をください。
選抜方法	希望者が定員を上回った場合は、面談結果と成績をベースに選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	ボブ田中が主担当する科目全般 特に、コミュニケーションプランニング
2022 年度担当科目	広告概論、コミュニケーションプランニング、テレビコマーシャル論、コミュニケーションメディア論、マーケティングコミュニケーション論、プレゼミナール A、ゼミナール I・II
授業概要	■テーマ：「課題発見と解決を行う実践型コミュニケーション」 ■概要：実際の企業や社会の課題に対して、コミュニケーション視点で解決策を考え実施することを目指します。①情報収集と分析、②課題発見、③アイデア拡散と収束、④論理的なストーリー構築、⑤企画書作成、⑥実施制作進行管理などの一連の流れの中で、社会で生き抜くコミュニケーション力も養っていきます。ゴールは、卒業時に社会でも通用する企画書が書けることです。 ■ゼミナール I・II (3 年次)：企業からのオリエンテーションを受け、複数の「チーム」で課題発見と解決策を考え、企業担当者にプレゼンまで行います。2022 年度は、「花王」から商品提供を受け、使用体験をベースにプロモーション企画のプレゼンテーションを行いました。 ■卒業研究 (4 年次)：「個人」でプロジェクトを立ち上げ実践します。論文執筆はありませんが、社会でも通用する緻密な企画書作成とその実践が求められます。 ■合宿研修：コロナ禍の状況によりますが、可能であれば 3 年次に地方の企業訪問や現場視察を兼ねた研修を行います。 ■就職活動：私が以前在籍していた大学での実績ですが、広告会社 (マスメディア・デジタル) やイベント企画会社などへの就職が多いです。随時、個別に就職面談を行います。また、ゼミで自身が書いた企画書を武器に就活にのぞんでもらいます。 ■その他：やるべきことが多いので、授業時間外にチーム及び個人の両方において多くの課外活動が求められます。チームのメンバーと協力して活動ができるコミュニケーション力のある人、ゼミで精一杯頑張りたいと思う人、待っています。時間管理に重点を置いていますので、遅刻する人や 1 回くらい休んでもいいと思う人には向いていません。

ゼミナール紹介

担当者名	村井 睦
e-mail アドレス	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ を確認
研究室	3409
在室曜日・時限	https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/ の office hour を確認
個別説明会 (日時・場所)	説明会はおこないません。 ゼミの説明を希望する皆さんへは対面か zoom で個別面談をおこないます。 *メールにてアポを取って下さい。
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	教室などの詳細は未定のためメールにて連絡してください。
選抜方法	選抜方法は面接や GPA などを総合的評価し選抜します。
ゼミナールに 関連する科目	なし
2019 年度担当科目	基礎演習 B、インタラクティブメディア概論、情報表現デザイン、ミュージックビデオ制作 A、Web デザイン
授業概要	本ゼミナールでは、新しい技術を積極的に取り入れ、旧来からの表現の枠にとらわれない新しい視覚伝達の領域を模索していく。映像・紙・Web などのメディアを横断的に学ぶ事により総合的な表現力や情報発信力を習得する事を目的とする。またグループワークを多く取り入れてコミュニケーション能力を高める事も重要な学習目的となる。 *詳細は下記を参照してください。 https://sites.google.com/a/shonan.bunkyo.ac.jp/murai/

ゼミナール紹介

担当者名	新任 C (著作権ビジネスと法制度)
e-mail アドレス	
研究室	
在室曜日・時限	
個別相談など (日時・方法)	
選抜方法	GPA(100点) : GPA の値を 100 点満点に換算して採点する。
ゼミナールに 関連する科目	「コンテンツ・プロデュース」、「著作権ビジネス論」、「現代社会と著作権」、「情報社会と法」、「基礎演習 A」、「ゼミナール I」、「ゼミナール II」、「卒業研究 I」、「卒業研究 II」等
2022 年度担当科目	
授業概要	2023 年度 4 月着任予定です。 個別相談は、学科長の岡野、または教務委員の白土が代わりに実施します。希望する学生は必ず個別相談を受けてください。